

## 若狭の原発周辺の活断層を根本的に見直せ M7、3の直下地震を想定せよ 断層モデルによる地震動の過小評価を許すな

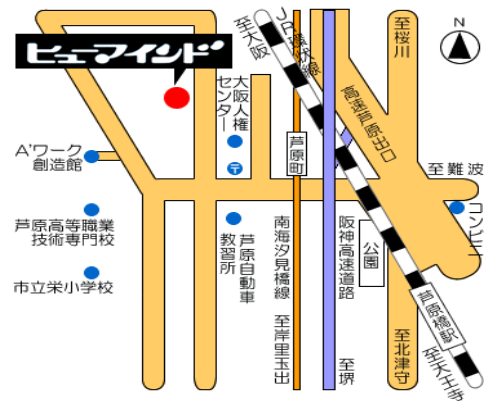
### 「原発と地震」の学習会

若狭の原発の耐震性の再評価は、  
本当に地震に耐えられるのでしょうか？

- ・ 今話題になっている断層モデルを暴く
- ・ 3月にも出る関電の地震の再評価中間報告を批判するために



3月 2日(日)  
午後1時半～



場 所： ヒューマインド (JR環状線「芦原橋」駅下車 徒歩7分)

若狭の原発は、古くなり、地震に弱い

原子力発電所を運転開始してから 美浜発電所は、1号機は38年目、2号機は36年目、3号機は32年目となり、事故の絶えない美浜発電所

を即刻停止していくべきです。原子力発電を進めてきた関電、県自治体、国が、1日も早く脱原発政策へ転換する責任があるのです。

昨年7月に起きた新潟県中越沖地震では、原発の耐震設計を大きく上回る揺れが、柏崎・刈羽原発を襲い7基すべてが、今も止まっている

状態です。再開のめどは立っていません。日本各地の原発の耐震性が大問題となっています。「日本のような地震列島で原発を運転してはならない」というのが、多くの人々の思いとなってきています。阪神淡路大震災以降、次々と起こる地震が、まさに、それを厳しく警告しているのではないのでしょうか。

**活断層の評価が甘いまま、原発建設を進めてきたことが明らかになる**

1月30日付け福井新聞によりますと、敦賀半島の浦底断層は、これまで「活動時期が古く安全審査の対象外」と評価されてきましたが、中田高教授らは「地質学の常識を無視した意図的な評価だ」と批判し、「実際は1万数千年前以降という新しい時期に活動した可能性が高く、耐震安全性を緊急にチェックすべきだ」と警告しています。浦底断層は敦賀1・2号の原子炉建屋からわずか約300メートルの所を走り、南側の海底へ延びており、政府の地震調査研究推進本部も浦底 - 柳ヶ瀬山断層帯は推定長さ約25kmで



マグニチュード7.2程度の地震を起こすと警告しています。

**M7.3の直下地震に耐えられない原発は閉鎖**

原発周辺では、電力や国が想定した地震をはるかに超えてしまう地震が実際に起こる危険がますます高まっています。

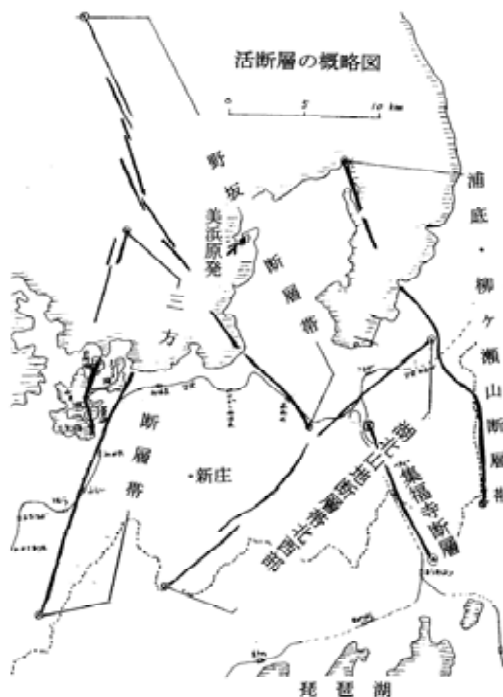
関電においても、美浜原発と野坂断層帯や三方断層帯との関連、大飯・高浜原発と熊川断層帯や小浜湾内海底断層・大島半島中部断層との関連などでも同様に過小評価しているのではないかと私たちは危惧しています。

例えば美浜原発周辺では、地震調査研究

推進本部地震調査委員会(推本)は若狭湾周辺の陸域及び海域の断層を評価し、多数の活断層帯を公表しています。推本が評価したとおり「野坂断層帯」が長さ31kmにわたって連動することになれば、マグニチュード7.3程度の地震が発生すると推定されます。しかし、関電は美浜原発の耐震性を考慮する場合に、長さ17kmのM6.9の地震しか想定していません。

私たちは関電に対して大飯・高浜・美浜の全原発の運転停止を求め、M7.3の直下地震に耐えられない原発は閉鎖するよう求めます。そして、原発の耐震性について公開討論会を開くよう強く求めます。全国の老朽原発が一層地震に弱いことは明白です。

最近の地震の評価で断層モデルでの評価法が出てきました。この断層モデルによると、これまで批判してきた松田式よりも地震の規模を過小評価することになるのです。断層モデルのレシピによると、最近起きている地震を再現できていないことが明らかになりました。この評価の問題点を3月2日の「地震と原発」の学習会で明らかにします。是非、ご参加ください。



## 今後の予定

### 2月24日(日) 午後2時～4時半 エネルギー・環境税制を考える

場 所： 苅田土地改良記念会館  
(地下鉄御堂筋線「我孫子」駅下車 東へ5分)  
主 催 地球救出アクション97

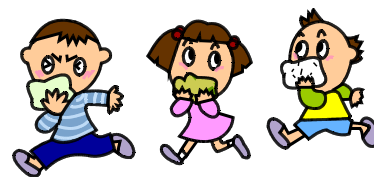


### 3月 2日(日) 午後1時半～4時

「原発耐震性の見直し中間まとめが 3月にも出ます」

### 「地震と原発」学習討論会

場 所： ヒューマインド  
(JR環状線「芦原橋」駅下車 徒歩7分)



### 3月 6日(木) 午後1時から

厚労省交渉に結集を！

### 厚労省に「喜友名さんの労災認定」を迫る

場 所： 参議院議員会館  
主 催： ヒバク反対キャンペーン



(「喜友名さんの労災認定を求める」署名活動を 3月2日10時半から 阪神尼崎駅前でおこないます。)

### 3月 23日(日) 午後2時～4時半

イラクに平和を！ウラン兵器の禁止を！

### 非核・平和 第16回 学習会

場 所： ヒューマインド (JR環状線「芦原橋」駅下車 徒歩7分)  
主 催： 地球救出アクション 97

編集後記

- ・ 関西電力は、新エネルギー開発としてシャープと共同で、大阪の堺の臨海で大規模な太陽光発電パネルを建設する予定です。地球温暖化問題で海面に没するツバル共和国には、大規模な太陽光パネルを建設すると宣伝をしています。そして、CO2の削減に原発運転、プルサーマル計画を宣伝しています。
- ・ 原発の地震に対する安全性が大問題になっている中、プルサーマルの準備を始めました。関電は、「地震問題とプルサーマルの問題は、直接リンクしないので、プルサーマル計画を進めます」と、答えました。自分たちのへ理屈を並べ立てて、正当化する企業の体質にうんざりさせられます。こんな企業が、どうして原発の安全性を最優先にしていると言えるのでしょうか。

きよ子